

## 茅ヶ崎市子ども・子育て支援事業計画 施策進捗管理シート

施策名	情報メディアの急速な発展にともなう、有害情報から子どもを守る環境づくり				方向性	拡大	掲載頁	P 91
計画体系	基本目標	子育てを支援する生活環境・安全の確保			担当課	青少年課		
	施策の方向	子どもを犯罪等の被害から守るための活動の推進						
関連計画	1	茅ヶ崎市教育基本計画	2	ちがさき男女共同参画推進プラン				
	3		4					
施策内容と目標	インターネット(携帯電話)の普及による、出会い系サイトや学校裏サイト等による犯罪、被害を防止するため、学校、青少年育成団体、地域等と連携を図り、情報の提供や研修会等の実施など、啓発をすすめます。							
指標	指標		現状値(H26)		目標値(R1)			
	小学校、中学校に係るインターネット上の有害情報の監視及び月間検索数		3, 449件(H25)		5, 000件			
年度目標	H27	H28	H29	H30	R1			
	5, 000件/月	5, 000件/月	5, 000件/月	5, 000件/月	5, 000件/月			
年度実績	7,683件/月	4, 238件/月	3, 763件/月	3, 673件/月	3, 977件/月			
年度評価	A	A	C	C	B			
取組状況	H27の取組内容		H28の取組内容		H29の取組内容		R1の取組内容	
	<p>パソコンでの監視を1台増加させ機能強化させるとともに、引き続き学校教育指導課との情報共有を図った。 (年度目標に対する取組以外) 11月の子どもの安全を守るキャンペーンにて、子どもを有害情報から守ることを啓発する物品を配布し、広く啓蒙活動を行った。</p>		<p>ツイッターやブログなど検索可能な書き込みを掘り下げて検索を行い、緊急を要する案件を発見した場合は、速やかに学校教育指導課に情報提供した。(その後は、同課及び学校にて対応。) (年度目標に対する取組以外) 5月・11月に警察、青少年指導員、青少年育成推進協議会等と連携し、「子どもの安全を守るキャンペーン」を実施し、広く市民に啓発した。</p>		<p>児童・生徒、先生への誹謗・中傷等は、関係機関へ情報提供することで、本人への指導や保護者との相談に結びつき、課題の解決につながっている。28年度から人員体制を1人にしたため、目標値との乖離があるが、学校教育指導課との連携を密にしながら対応している。 (年度目標に対する取組以外) 5月・11月に警察、青少年指導員、青少年育成推進協議会等と連携し、「子どもの安全を守るキャンペーン」を実施し、広く市民に啓発した。</p>		<p>個人やクラスが特定できる書き込みや、児童、生徒、先生への誹謗、中傷等を関係機関へ情報提供することで、本人への指導や保護者との相談等に結びつき、課題解決の糸口になっている。 (年度目標に対する取組以外) 5月・11月に警察、青少年指導員、青少年育成推進協議会等と連携し、「子どもの安全を守るキャンペーン」を実施し、広く市民に啓発した。</p>	
	次年度に向けての検討事項		次年度に向けての検討事項		次年度に向けての検討事項		次年度に向けての検討事項	
	保護者への効果的な啓発活動や、地域としてどのような見守りが出来るのかを検討。		facebookやLINEなど閉鎖的なインターネット環境により、インターネット上の悪質な書き込みの監視がしにくくなっていることから、その対応について検討する必要がある。		閉鎖的なインターネット環境の発生や匿名のやりとりが可能なツールの普及により、いじめなどによるインターネット上の悪質な書き込みの監視がしにくくなっている。学校等との連携を密にすることで早期対応に努めていく。		閉鎖的なインターネット環境の発生や匿名のやりとりが可能なツールの普及により、いじめなどによるインターネット上の悪質な書き込みの監視がしにくくなっているが、引き続き学校等との連携を密にすることで子どもの安全が守れるよう早期対応に努めていく。	
5年間の評価と総括	評価	(5年間の総括)					(数値目標がある場合)達成率	80 %
	B	FacebookやLINEなどの検索不可能なツールや、匿名のやりとりが可能なツール(Peing-質問箱)等、利用するSNSツールの多様化等により、書き込みの監視がしにくくなっていることや人員体制の見直しにより、件数が減少傾向となったが、学校との連携を深め、指導や相談に結びつくよう実施した。また、SNS利用時の注意点を全校へ周知すること等により、生徒への啓発につながった。今後はより学校等との連携を密にすることで早期対応に努めてゆく。						

## 茅ヶ崎市子ども・子育て支援事業計画 施策進捗管理シート

施策名	青少年非行防止対策及び通学路等におけるパトロール活動の推進				方向性	継続	掲載頁	P 92	
計画体系	基本目標	子育てを支援する生活環境・安全の確保			担当課	青少年課			
	施策の方向	子どもを犯罪等の被害から守るための活動の推進							
関連計画	1	茅ヶ崎市教育基本計画	2						
	3		4						
施策内容と目標	青少年関係機関・青少年育成推進協議会等の関係団体の協力のもと、青少年相談の助言指導、繁華街のパトロールを推進するとともに、保護者や学校関係者等による学校付近・通学路等におけるパトロール活動を推進し、子どもを犯罪から守ります。								
指標	指標		現状値(H26)		目標値(R1)				
	愛のパトロール実施回数		19回(H25)		19回				
年度目標	H27	H28	H29	H30	R1				
	19回	19回	19回	19回	19回				
年度実績	19回	19回	19回	19回	19回				
年度評価	A	A	A	A	A				
取組状況	H27の取組内容		H28の取組内容		H29の取組内容		H30の取組内容		R1の取組内容
	各推進協においてパトロールを実施した。(年度目標に対する取組以外)「子ども110番の家ステッカー」の掲示を呼びかけ556枚を配布。新一年生に対し防犯ブザーの配布。5月、11月に子どもの安全を守るキャンペーンを実施。小学校の長期休暇に合わせ防災無線等により、市内での見守り活動の呼びかけを行った。		各学区青少年育成推進協議会を中心に登下校時等にパトロールを実施した。(年度目標に対する取組以外) ・新一年生への防犯ブザーの配布 ・防災無線による子どもの見守りの呼び掛け(夏季休業明け等) ・青少年育成推進協議会を通じた「子ども110番の家」の周知及び配布		各学区青少年育成推進協議会を中心に登下校時等にパトロールを実施した。(年度目標に対する取組以外) ・新一年生への防犯ブザーの配布 ・防災無線による子どもの見守りの呼び掛け(夏季休業明け等) ・青少年育成推進協議会を通じた「子ども110番の家」の周知及び配布		各学区青少年育成推進協議会を中心に登下校時等にパトロールを実施した。(年度目標に対する取組以外) ・新一年生への防犯ブザーの配布 ・防災無線による子どもの見守りの呼び掛け(夏季休業明け等) ・青少年育成推進協議会を通じた「子ども110番の家」の周知及び配布		各学区青少年育成推進協議会を中心に登下校時や夜間にパトロールを実施した。(年度目標に対する取組以外) ・新一年生への防犯ブザーの配布 ・防災無線による子どもの見守りの呼び掛け(夏季休業明け等) ・青少年育成推進協議会を通じた「子ども110番の家」の周知及び配布
	次年度に向けての検討事項		次年度に向けての検討事項		次年度に向けての検討事項		次年度に向けての検討事項		R1年度目標と指標の目標値(R1)の差異の理由
	各学区でのパトロール体制の強化のため、庁内、防犯団体との横断的な協力体制強化が必要。		各学区でのパトロール体制強化のため、庁内、防犯団体との横断的な協力体制強化が必要。		各学区でのパトロール体制強化のため、庁内、防犯団体との横断的な協力体制強化が必要。		各学区でのパトロール体制強化のため、庁内、防犯団体との横断的な協力体制強化が必要。		
5年間の評価と総括	評価		(5年間の総括)				(数値目標がある場合) 達成率		100 %
	A	各学区の青少年育成推進協議会と青少年指導員を中心に登下校時の見守り活動や、夜間パトロールを実施し、子どもたちを犯罪や事故から守ることができた。防災無線で子どもの見守りの呼びかけをしたほか、年2回の街頭キャンペーンなど、広く市民に子どもたちの安全に協力をお願いするよう周知に取り組んだ。引き続き各学区青少年育成推進協議会・青少年指導員を中心にパトロールを実施していただき、青少年健全育成の重要な事業として、地域全体で子どもの安全を守る取り組みを進めることができるよう、支援をしていく。							

## 茅ヶ崎市子ども・子育て支援事業計画 施策進捗管理シート

施策名	スクールカウンセラー配置活用事業				方向性	継続	掲載頁	P 94	
計画体系	基本目標	子育てを支援する生活環境・安全の確保			担当課	教育センター			
	施策の方向	被害に遭った子どものための相談の実施							
関連計画	1	茅ヶ崎市教育基本計画	2						
	3		4						
施策内容と目標	スクールカウンセラーを有効に活用し、学校における教育相談体制の充実を図ります。								
指標	指標		現状値(H26)		目標値(R1)				
	スクールカウンセラーの配置		13人245時間(7時間×35日)(H25)		13人245時間(7時間×35日)				
年度目標	H27	H28	H29	H30	R1				
	スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)	スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)	スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)	スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)	スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)			スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)	
年度実績	スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)	スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)	スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)	スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)	スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)			スクールカウンセラーの配置 13人245時間(7時間×35日)	
年度評価	A	A	A	A	A			A	
取組状況	H27の取組内容		H28の取組内容		H29の取組内容		H30の取組内容		R1の取組内容
	適切かつ迅速、丁寧な対応による相談事業を心がけた。また、必要に応じて他の関係機関と連携をとり、ケース会等の開催により問題解決に向けた支援を行った。相談件数内訳、来所2,280件、要請11件、訪問37件、電話370件。(小学校937件、中学校1,469件、その他292件)		配置された中学校を拠点として、全小・中学校(小学校19校、中学校13校)で活動を行った。相談件数4,370件。内訳、小学校381件、中学校833件、保護者1,273件、教職員1,883件。)		配置された中学校を拠点として、全小・中学校(小学校19校、中学校13校)で活動を行った。相談件数3,652件。内訳、小学校352件、中学校650件、保護者1,079件、教職員1,571件。)		配置された中学校を拠点として、全小・中学校(小学校19校、中学校13校)で活動を行った。相談件数4,115件。内訳、小学校442件、中学校768件、保護者1,249件、教職員1,656件。)		配置された中学校を拠点として、全小・中学校(小学校19校、中学校13校)で活動を行った。相談件数4,335件(内訳は次のとおり) 小学校 1,780件(児童、保護者、教職員) 中学校 1,112件(生徒、保護者、教職員)
	次年度に向けての検討事項		次年度に向けての検討事項		次年度に向けての検討事項		次年度に向けての検討事項		R1年度目標と指標の目標値(R1)の差異の理由
中学校での相談件数は増加しているが、小学校から早期に問題解決に向けて動き出せることが望ましい。全小学校への配置が強く求められる。		小学校での相談件数が増加傾向にあり、様々な問題が低年齢化してきていると考えられる。早期に全小学校への配置が求められる。		小学校での相談ニーズが高まっているが、月1回程度の勤務では対応しきれていない。		小学校での相談ニーズが高まっているが、月1回程度の勤務では対応しきれていない。			
5年間の評価と総括	評価	(5年間の総括)				(数値目標がある場合)達成率		100%	
	A	保護者や児童・生徒等がスクールカウンセラーに相談することで、安心感を持ち、前向きな気持ちになることができている。また、保護者及び教職員はスクールカウンセラーから専門的助言を受けることで、児童・生徒への理解を深めることができ、その助言は大変効果的である。スクールカウンセラー配置活用事業は、不登校や友人・家族等との関係において悩みを抱える児童・生徒、保護者等にとりとても重要な事業であるので、今後もスクールカウンセラーや学校と更に連携を図っていくこととする。							